

新型コロナウイルス千葉県婦性会の取り組み

緊急事態宣言は解除されて、盛夏の時期を越えてもなお衰える様子のない新型コロナウイルスの猛威。

目に見えないものが相手なのでどこまでできているのか、何か足りないものはないのか、それさえも手探りの状態ですが、定員で20名の人が一緒に生活する千葉県婦性会。なんとしても感染者を出すことを避けなければいけません。

そこで第一には個室の確保。当会の部屋数は20室で定員が20名となっており、2名入れる和室が6室あることから20名以上在会しているのが常態でしたが、感染防止の趣旨から20名以下になるように調整しています。

そして、毎朝8時清掃の時間には、通常の清掃に加えて職員が用意した消毒液で食堂のテーブルや椅子、ドアノブ等不特定多数の人が手を触れる場所の消毒をはじめました。

そのころはマスクの入手にも苦労しましたが、皆様からのご寄贈もあり、毎日仕事などで外出する在会者の方に欠かすことなくマスクを支給することができました。

被接触型の体温計についても申し込みから入手までかなりの時間がかかりましたが、7月には入手毎日在会者と職員全員の検温を行い記録するようになりました。

ゴールデンウィークやお盆休みなど仕事がない日が続く時期には、「お部屋で過ごそうキャンペーン」を実施。部屋で一人で遊べるジグソーパズルや

プラパズルを用意して貸し出しを行っています。いろいろな考えてやっつてはおりますが、最後は手洗いの励行とか危険な場所に近づかないといったひとりの一人の意識によるところが大きく、今後も毎日の検温の機会などに根気よく声かけをしていくのが一番重要かなと考えています。



保谷茂好調理員

令和元年度宮本賞受賞

「宮本賞」は更生保護事業推進の功績に対し、関東地方更生保護委員会推薦のもと毎年二名の方に更生保護法人自誠会から贈呈される賞です。令和元年度は当会の保谷茂好調理員が長年の地道な努力の功績により受賞させていただきました。残念ながらコロナ禍により顕彰式も懇親会も中止。賞状と記念品を贈っていただき御本人に伝達いたしました。

